

## 第3B（中）分科会 —教育環境整備に関する課題—

研究主題 「小規模校における魅力ある学校づくり」  
～教育活動の改善と情報発信の取り組みを通して～

司会者	竹田市立豊岡小学校	工藤賢明
提言者	竹田市立久住中学校	後藤寛
助言者	豊後大野市立三重東小学校校長	赤嶺俊治
記録者	竹田市立直入中学校	安東大暁

### 1 協議の柱

保護者・地域から信頼される学校づくりはどうあればよいか

### 2 協議の実際

#### (1) 発表に対して

質問 昼休みを45分間にしたが、部活動顧問から(部活動の時間が短くなるなどの)異論はなかったか。また、放課後の時間の確保で工夫したところは…。

回答 昨年度の反省を受けて提案したので、部活動顧問からの反対意見はなかった。20分間の生徒会専門部活動を確保するため、水曜日は清掃をカットしている。

質問 職朝を週2回に減らしたが、連絡や学年の打合せ時間をどのように確保しているのか。

回答 連絡は日程を職員室黒板に書くのみ。人数が少ないので連絡は取りやすい。8時前あるいは、8時20分の学活終了後に打ち合わせをしている。打ち合わせをしない日もある。

#### (2) グループ協議（保護者・地域から信頼される学校づくりはどうあればよいか）から

○ホームページに多いときで4,000件のアクセスがあるという学校も。スマートフォンで簡単に見られるホームページ。保護者、地域の信頼を深めるためには有効である。

○コミュニティースクールの取組を通して、学校が地域に働きかけ、地域に出向くことで保護者・地域から信頼される学校づくりをめざしている。

○米作り・郷土学・体験学習等を通して、地域との連携を行なっている。それが、学校理解につながる。しかしながら、最近、地域とのつながりが薄くなっているのは否めない。

○地域や保護者を巻き込んでいくことが信頼に結びつく。児童委員・民生委員との話し合い、老人クラブとの交流を通して、学校の方針を地域に伝え、児童生徒の実態を見てもらい、共通の目的意識を持つことが大切である。

### 3 指導助言

学校教育のさまざまな部分で教頭として力を注いでいる。校長、教職員と相談しながら、力を発揮しなければならない。特に、休憩時間を30分から45分にして「放課後がなくなるのではないか。退庁時刻と一致しているところが心配である。」という声もあったが、思い切って休憩時間を45分にしたのは評価すべきである。かつて別府市の学校で「子どもが思いっきり遊べる時間を…」という校長の方針のもと、1時間の休憩時間をとった所があった。前例を踏襲しないこと、教頭が一步踏み出すことが大切である。学校教育目標の下、校長の思いを受けながら、思い切った活動を行なうようにしていくことが大切である。くじけず、あきらめず。教頭の元気が、学校の元気である。